

東京・板橋区にある大東文化
 大学が、近隣の高島平団地の活
 性化事業に乗り出す。カフェや
 ミニFM局を開設、大学生と地
 域住民との交流拠点とするのが
 狙いだ。住人の高齢化に直面す
 る団地と少子化に危機感を募ら
 せる大学の連携は、地域再生の
 モデルケースになるのか注目を
 集めている。

高島平団地の外れにあ
 る「さくら通り商店街」。
 商店街といっても大半は
 一日中シャッターが下り
 たままで、昼間でも人通
 りはほとんどない。
 この一角に来年二月を
 めどに大東文化大学が
 「コミュニティカフェ」
 を開店する。喫茶スペース
 のほかにステージや音
 響設備を整え、ミニFM
 局も併設する。ライブな
 どのイベントを企画し、
 大学に通う留学生向けの
 語学講座なども定期的
 に開催する計画だ。

高島平で大東大

団地再生に大学の知恵

ここから大学までは徒
 歩二、三分の距離。「学
 生と団地住民のための交
 流と情報発信の場にしま
 い」と同大学の山本孝則
 教授は意気込む。

東京の近未来凶

一九七二年に完成し、
 東洋一の巨大団地として
 人気を集めた高島平団
 地。第二次ベビーブーム
 と重なったことでピーク
 時には人居者は三万人を
 超え、団地中に子どもた
 ちの歓声が響き渡った。
 超え、団地中に子どもた
 ちの歓声が響き渡った。



約八千三百戸の賃貸棟
 のうち、二百戸程度は空
 き室で人居者は二万人ま
 で減った。六十五歳以上
 の高齢者の割合は三割。
 このままでは十年後に五
 割になる。高島平の今の
 姿は、超高齢化社会にな
 る東京の近未来凶だ。

事業も始める。来春に教
 員や学生、留学生向け
 職業や学生、留学生向け
 的なルームシェアが可能
 になる。生活が苦しい
 一部は複数の学生が共同
 生活をするルームシェア
 が支援できる。

「若者が増えれば団地も
 元気になる」と目を輝か
 せる。団地には自治会が
 あるが、加入率は五割を
 下回り、イベントを催す
 にも担い手が不足し始め
 た。学生は団地を活性化
 する貴重な存在だ。

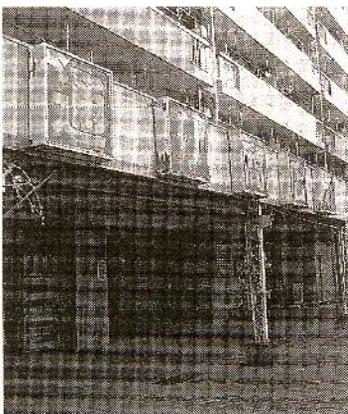
地域通貨も発行

空き室が増えたといっ
 ても駅前にある同団地の
 家賃は2DKで月八万
 九千円と学生の一人暮らし
 とを認める予定だ。

立ち上げ済み。地域内の
 ボランティア活動でサン
 クを得た学生は大学に払
 う家賃の一部に充てるこ
 とを認める予定だ。

交流拠点や 部屋借り上げ 老いる地域 学生生活力

完成と同時に同居し、
 三十五年にわたってタウ
 ン誌「高島平新聞」を発
 行する村中義雄さんは
 長い取り組みが必要だ。



団地内の商店には人影はない(東京・板橋区の高島平団地)

大学と団地の連携には
 先例がある。
 千葉市花見川区の「西
 小中台団地」(九百九十
 戸)だ。高島平団地と同
 じ一九七二年に日本住宅
 公団(現・都市再生機構)
 が分譲した。
 現在、団地内の二室に
 ルームシェア方式で千葉
 大学の学生六人が住む。

千葉の団地でも連携

同大学の教授とリフォー
 ムを担当する非営利組織
 (NPO)などで設けた
 有限責任事業組合(LL
 P)が管理する。団地の
 住人二人が一家守(やも
 り)として学生の相談
 にも乗り、地域住民との連

2室をルームシェアで

絡役になっている。
 団地の再生にも千葉大
 は協力している。九〇年
 代後半に団地全体の建て
 替え計画が浮上したが、
 日本では例がない。「第
 一号としてビジネスモデ
 ルを作れば、いずれ民
 間でも可能になる」と小
 林秀樹教授は話す。